

COP17 への参加報告& REDD 候補地現地調査

■ COP17 への参加

2011年11月28日から12月9日にかけて、南アフリカのダーバンで第17回気候変動枠組条約締約国会議(COP17)が開催されました。FFORTRAからも専門家がCOP17に参加し、REDD+など交渉状況の情報を収集するとともに、サイドイベントへの参加などを通じて積極的な情報発信に努めました。

今回のCOPでは、インドネシア政府は初めての試みとしてインドネシア・パビリオンを設け、会議期間を通じ同国における気候変動対策に関するさまざまな広報を行いました。JICAは気候変動対策能力強化プロジェクトが中心となり、パビリオンの企画などに積極的に協力しました。

なかでも重要な森林・土地利用分野では、いくつかのセッションが行われましたが、このうち12月2日に開催された「インドネシア REDD+からの教訓」というセッションには FFORTRAからも参加して行われました。セッションの概要は次の通りです。

- ガジャマダ大学より、中央カリマンタンにおけるコンセッション保有企業との共同による伐採跡地の回復とモニタリングの発表が行われ、適切な選択的伐採であれば跡地の森林回復が十分にみられることが示された。
- UN-REDDより、セーフガードに関する参加型ガバナンス評価(PGA)について発表が行われ、政策設計、キャパシティ、森林管理の3つの柱に基づき具体的な指標により評価していく方法が示された。
- WWFインドネシアから、テッソニロ国立公園(リアウ州)、セバンガウ国立公園(中央カリマンタン)でのREDDの取り組みについての発表が行われた。テッソニロ国立公園では、保全林内にもかかわらず急速に森林が減少しており、国立公園でもカーボンクレジットを生む可能性が高いことが示された。
- JICAの経験として、FFORTRAから、森林セクターにおけるJICA支援とREDD+への貢献、2011年に行われたREDD+調査の結果紹介を行った。
- ITTOから、ムルプティリ国立公園(ジャワ)におけるREDD+取り組みの発表があり、コミュニティによる参加型のアセスメントについて紹介された。

質疑でも、国立公園におけるREDD+について民間投資家が躊躇しがちであることについての対応など、活発なコメント・質問がありました。

このほか日本政府ブースやパビリオンで、インドネシアにおけるREDD+に関連したJICAプロジェクトのパンフレット配布などを行い、積極的な情報発信に努めたところです。

■ JICA/REDD 現地調査

昨年4月から9月にかけて実施した「インドネシア REDD+実施支援調査」のフォローアップとして、FFORTRA では JICA インドネシア事務所とともに昨年9月、10月にランブン州及び西カリマンタン州に出張し、REDD 候補地の現地調査を実施しました。

<ランブン州>

ランブン州は、スマトラ島南部にある州で、東部の沿岸沿いに広がるワイカンバス国立公園とその周辺が、アクセスの良さやゾウ、サイ、トラなど稀少動植物が存在すること等から REDD の候補地として挙げられました。同公園は、総面積 125,000ha のうち、約 40%が荒廃地となっており、荒廃地復旧のニーズが高いこと、また、過去に無償資金協力による植林や森林火災プロジェクトが実施されており、過去の日本の ODA の実績を活用しようという点において、REDD の候補地としての妥当性が確認されました。一方、公園内も含め、ランブン州には泥炭地の分布がほとんどなく、想定されるクレジット量が低位であること、また、公園周辺の大半は農地となっており、REDD 関連の活動は公園内での植林などに限定される可能性があることが確認されました。



荒廃地の状況

<西カリマンタン州>

西カリマンタン州は、泥炭地の分布が多いことから REDD 対象地として注目を集めており、内陸部では GIZ や USAID、WWF 等により REDD を含む気候変動対策関連の活動が実施されています。しかし、西側の沿岸部に沿った泥炭地では、比較的ドナーのプレゼンスが少ないことから、今回の出張では、沿岸部中央にあるグヌンパルン国立公園を訪れ、公園内及び周辺の荒廃地の状況や地域住民等による農林業活動の状況、生態系などを調査しました。その結果、同公園は山岳、マングローブ、海岸、河畔林など生態系や景観が多様性に富んでおり、また、森林減少・劣化の要因も様々であることから、REDD デモ活動や方法論の選択肢が広いと考えられました。また、同地域でオランウータンの生息地の保全を主目的として生態系回復コンセッションの取得や村落林の設立等 REDD 関連の活動に取り組んでいる NGO の Fauna and Forest International (FFI) と情報交換を行い、FFI の活動対象地を視察しました。さらに、州都ポンティアナックで林業省の出先機関や州森林局、タンジュンプラ大学など関係者にヒアリングを行い、州政府は関係機関を横断した REDD の枠組み作りを検討するなど REDD について前向きな姿勢であるものの、具体的な政策を実施するには至っておらず、州としての REDD の取り組みを支援する余地は大きいことが確認されました。



公園内の里山的景観

インドネシア国家森林計画実施支援プロジェクト (FFORTRA)
Facilitating the Implementation of National Forestry Strategic Plan
インドネシア林業省 (Mangala Wanabakti) ブロック VII、6 階
TEL: 62-21-572-0218 Email: ffortra@jica-dephut.or.id (高原、山内)